

大学初年次教育における作文の試行事例

Trial Cases on Japanese Writing for First-year Seminars

山下 功

要旨

筆者が初年次教育の授業で試行した「200字論述」では、「現在持っている知識で考える」ことを最大の目的とし、教員が指定したテーマに沿って就職試験の作文を想定して作文を行った。その結果、知識や語彙の少ない傾向が見られた。また、テーマ設定の適切性や答案の評価方法が問題点として挙げられた。以上のことから、より効果がある文書作成教育や、知識の欠落を補う教育を行うことを検討すべきである。

キーワード：初年次教育、作文、論述、200字、就職

1. はじめに

大学初年次教育における作文の実践事例については既にいくつかの報告があることから(金子, 2009; 棚橋, 2010; 橋本, 2012)、その重要性は高いといえる。また、このような作文教育を就職活動と結びつける試みも既になされている(毛利, 2010)。

本稿では、筆者が新潟国際情報大学(以下、「本学」と表記する)の初年次教育の授業で試行した「200字論述」の事例を採りあげ、その問題点を明らかにする。

2. 200字論述の概要

2.1 200字論述の目的

「200字論述」では、「現在持っている知識で考える」ことを最大の目的とした。和田(2000, p.48)は、「思考力のある人間とは、知識を多く身につけてきて、それを使って適切な問題解決を行う推論が出来る人」とであると指摘している。すなわち、良質のアウトプット(文章)を得るためには、大量のインプット(知識)が必要である。しかしながら、本学の入学者の中には知識の量が少ない者もいることは否めない。そして、更に深刻なのは、自身の持つ知識の量が少ないことすら認識していない場合である。そこで、このような目的を設定することにより、現在の知識の量を学生自身に理解してもらうこととした。

2.2 200字論述のルール

「200字論述」の答案作成に際して、学生に以下のルールを課した。

- (1) テーマは教員が指定する。

問題の作成および採点を効率化するため、様々なテーマを予め用意しておき、授業の都度、

*YAMASHITA, Isao [情報システム学科]

その中から選んで利用している。

- (2) その場で書くこと。制限時間は15分。

現在持っている知識でどの程度の答案を作成することができるかを判定するために、授業中に書かせることにした。制限時間については、最初は特に定めず、ほぼ全員の答案作成が終了した時点で回収していたが、数回実施した状況を反映した結果、15分とした。

- (3) 何も見てはいけない。

現在持っている知識の量を学生自身に理解してもらうため、資料や辞書などを全く見ずに書かせることにした。

- (4) 字数は、141字以上200字以下とする。

字数の上限は200字であるが、下限をどの程度にするかが問題である。当初、8割を超えて書くことが望ましいと考えて161字以上にする予定であったが、あまり書けない学生がいた場合を想定して7割超の141字を加減とした。20字×10行の原稿用紙を使用しているので、少なくとも8行目に入るまで書くことになる。

- (5) 就職試験の作文を想定して書くこと。

学生にとって、「200字論述」が将来どのように役立つのかをイメージできたほうが答案の作成がしやすくなると思った。本学での学習の最終目的は卒業論文の作成であるが、字数があまりにも違いすぎるため、「卒業論文を想定して書くこと」と指示しても学生にはイメージできない。そこで、字数がほぼ同じであるとともに、学生の将来に直結する就職活動と関連づけることとした。したがって、独創性や独自の視点を重視し、大多数の学生と異なることを書いたら高評価を与えている。

2.3 200字論述の手順

200字論述の手順は、以下のとおりである。なお、授業中に費やす時間は約45分である。

a. 事前準備

- (1) テーマを選定する。
- (2) 問題用紙兼解答用紙を準備する。
- (3) 映像や新聞記事を使用するテーマの場合、その準備を行う。

b. 200字論述を実施する回の授業

- (1) 教員が問題用紙兼解答用紙を配付する。
- (2) 学生が解答する(15分)。
- (3) 教員が答案を回収する。

c. 当該授業後、次回の授業までの準備

- (1) 教員が答案を添削する。
- (2) 教員が答案をスキャンし、印刷する。

d. 次回の授業

- (1) 教員が学生に答案を返却する。
- (2) 教員が講評及び解説をする。

c.(2)を行う理由は、JABEE(Japan Accreditation Board for Engineering Education: 日本技術者

教育認定機構)認定プログラムへ対応することである。JABEE対象の授業科目では、学生の答案(複写可)を教員の手許に残さなければならない。また、筆者の文書管理の都合上、PDFでも保管しているため、スキャンしてから印刷しているが、この必要が無いならばコピーでも差し支えない。

3. 200字論述の試行事例

3.1 200字論述の実施内容

本学情報システム学科1年次の必修科目であり、初年次教育に該当する「基礎演習1」及び「基

図表1: 2012年度前期 基礎演習1 論述問題

No.	授業実施日	テーマ
1	2012-04-12	なぜ、勉強しなければいけないのでしょうか。勉強すると、どのような良いことがあるのでしょうか。(200字)
2	2012-04-19	普通の生活をするのに十分な貯金があるとします。そのとき、あなたは働こうと思いますか?(社会人であると仮定する)(200字)
3	2012-04-26	血液型性格判断について、あなたはどう思いますか?(200字) 解説の際に、産経新聞の記事を配布した。
4	2012-05-10	[NHKスペシャル『若き技能エリートたちの戦い 巧みを競うオリンピック』(2007-12-03放送)をメモをとりながら視聴した後に出题] 1. 日本人技術者はどういう種目で出場したか?複数挙げよ。 2. 金メダルをとった日本人が他国の選手より優れていた点は何であるか?複数挙げよ。 3. 出場者たちは諸君とほぼ同じ年齢で技能五輪に出場している。自分自身と出場者たちを比較して感じたことを述べよ。(200字)
5	2012-05-17	1. 外国で、行きたい所はありますか?その場所と理由を述べて下さい。 2. 外国に旅行することに、どのような意義があると思いますか。(合計200字)
6	2012-05-24	最近のニュースから関心のあるものを1つ選び、その内容と感想を書いて下さい。(200字)
7	2012-06-07	別紙の復興食堂の新聞記事(新潟日報)を読み、自分の考えを200字以内で書きなさい。 記事の補足:この体育館付近は津波の被害は無かった。また、向かい側にはショッピングセンターがあり、スーパーやフードコートなどが震災前と同様に営業をしていた。
8	2012-06-28	[別紙(本稿では省略)の「賭けサイコロの必勝法(倍々ゲーム)」の内容を説明した後に出题] 1. 教員が説明した「賭けサイコロの必勝法」には重大な欠点がある。それは何であるか? 2. 巷には「必勝法」や「これであなとも勝ち組」などの情報があふれているが、正しくないものも多い。それにも関わらず、なぜ我々はそのような情報に惹きつけられるのか?(200字)
9	2012-07-12	[NHKスペシャル『沸騰都市 第3回 ダッカ』(2008-06-22放送)をメモをとりながら視聴した後に出题] 1. ダッカの経済成長にとって重要な産業は? 2. その産業に関する仕事が増えている理由は? 3. スラム住民向けのマイクロクレジットは、日本の消費者金融とは異なり、社会的に重要な意義がある。それはどのようなことか? 4. マイクロクレジットの年利率は15%であり、日本の消費者金融とあまり差がないが、それが「低金利である」といえる理由は? 5. 農村へのインターネット導入の効果を2つ挙げよ。 6. この番組から、世界有数の最貧国であるバングラデシュが貧困から脱しようとしていることが理解できたはずである。さて、先進国になった日本が繁栄を持続するために、我々はこれからどのように行動したらいいのだろうか?(200字)
10	2012-07-19	1. 自分が10年後にどのようになりたいか?10個挙げなさい。 2. 前期の学生生活の反省と、後期への抱負について、20行以上記述しなさい。以下のような項目が考えられるが、全て含める必要はない。(約800字) ・入学前の予想、期待、不安がどうなったか ・入学して分かったこと ・自分の成績(予想)について ・部、同好会、課外活動について ・友人関係について ・今後3年半の大学生活に向けての抱負(長期的) ・夏休みの目標、後期の目標(短期的) ・人生においての大学生生活の位置づけ

図表 2: 2012 年度後期 基礎演習 2 論述問題

No.	授業実施日	テーマ
1	2012-10-04	2012 年度前期 No.1 と同一のテーマ
2	2012-10-11	2012 年度前期 No.2 と同一のテーマ
3	2012-10-25	2012 年度前期 No.3 と同一のテーマ
4	2012-11-01	2012 年度前期 No.9 と同一のテーマ
5	2012-11-08	2012 年度前期 No.6 と同一のテーマ
6	2012-11-29	2012 年度前期 No.4 と同一のテーマ
7	2013-01-09	別紙の新聞記事『世界が日本人と同じ食生活すれば…地球 1.6 個分の資源必要』を読み、自分の考えを 200 字以内で書きなさい。
8	2013-01-16	2012 年度前期 No.6 と同一のテーマ (但し、「前期」を「1 年間」に、「後期」を「2 年次」に置き換えている)

図表 3: 2007 年度後期 卒業研究 1 論述問題

No.	授業実施日	テーマ
1	2007-10-17	もうすぐ裁判員制度が始まりますが、国民にとって関心がまだ低いですし、「できれば選ばれたくない」と思う人が多いのも事実です。今朝のニュースで、総理大臣が「今、私が裁判員に選ばれたら、喜んで裁判員になりますよ。」と発言したことが報じられたとします。そのとき、あなたはこの発言を聞いて、どのようなことを考えますか? (200 字)
2	2007-10-24	中国の国営鉄道の瀋陽駅では、切符販売窓口の販売員のサービス向上策の一つとして、販売員の売上成績を給与に反映しています。この制度は、販売員の行動にどのような影響を及ぼすと思いますか? (200 字)
3	2007-11-14	青色発光ダイオードなどの職務発明に対して、莫大な報酬を従業員に与えることについて、あなたはどのように考えていますか? (200 字)
4	2007-12-05	血液型性格判断について、あなたはどのように思いますか? (200 字)
5	2007-12-12	1. あなたは、家庭でミネラル・ウォーターを習慣的に飲んでいますか? 2. ミネラル・ウォーターは、水道水の約千倍の値段です。1. の答が「はい」の場合、どのようなところで水道水とは異なる価値を感じて、家庭でミネラル・ウォーターを飲んでいますか? 1. の答が「いいえ」の場合、ミネラル・ウォーターを飲まないことに関するあなたの考えを書いてください。(200 字)

基礎演習 2」の一部の時間を使って「200 字論述」を試行した。「基礎演習 1」は前期、「基礎演習 2」は後期の授業科目であり、各々、90 分の授業を 15 週にわたり実施する。これらの授業では、学科を約 15-20 名からなる複数のクラスに分割し、専任教員が授業を実施するが、「200 字論述」を試行したのは筆者担当のクラスのみである。図表 1 と図表 2 は、その内容である。

また、2007 年後期の「卒業研究 1」(3 年次後期必修)においても類似の授業を実施したため、その内容を図表 3 に示した。

なお、基礎演習の最終回で「反省と抱負」を書かせることは、2009 年 6 月 24 日に開催された情報システム学科 FD 研究会での報告を参考にして、筆者の授業で採り入れたものである。

3.2 200 字論述の解答の傾向

「200 字論述」の解答の傾向は以下のとおりである。知識の少なさが答案に現れているといえる。

- (1) ほとんどの学生は、15 分以内に書き終わる。しかし、200 字に見合う内容の濃さに欠ける。
- (2) 「現在持っている知識」という制約の中で、内容は薄いものの、自分なりに考えながら書いている。

例えば、「最近のニュースから関心のあるものを 1 つ選べ」という問題を 2 回出題したが、

図表 4: 2012 年度前期 No. 6 解答一覧

ニュースの内容	件数
新潟県内のトンネル工事現場での爆発死亡事故	2
朱鷺の誕生と放鳥	2
人工音声技術「VOCALOID」への注目	1
生活保護の不正受給	1
相次ぐ交通死亡事故（群馬の高速バス、京都の暴走車）	1
猫ひろしのカンボジア国籍での五輪出場不可	1
豪州での和牛の流行	1
被災地瓦礫の他県での処理	1
税と社会保障の一体改革	1
(白紙)	1

図表 5: 2012 年度後期 No. 5 解答一覧

ニュースの内容	件数
田中真紀子文相、大学不認可から一転して認可	2
米国大統領選挙でオバマ氏が再選	1
ディズニー社によるルーカスフィルム社買収	1
中国での反日デモと反政府運動	1
香川真司選手のマンチェスターユナイテッドへの移籍	1
暴力団の法的規制	1
竹島問題	1
シンドラ社製エレベーターの事故	1
(白紙)	1

同じニュースを 3 人以上が選ぶことは無かった。図表 4 と図表 5 を参照。

- (3) 優等生的解答を作成している。

例えば、「血液型性格判断について」の考えを述べる問題を 2 回出題したが、2 回とも否定的な意見が圧倒的に多かった。おそらく、「就職試験の作文を想定する」というルールを示したことが原因であろう。

- (4) 深く考えた解答が少ない。

例えば、2012 年度後期 No.4 では、大多数が「バングラデシュを見習え」と解答した。

- (5) 知識が不足している。

2012 年度後期 No.5 の米国大統領選挙に関して、対立候補の氏名（ロムニー氏）を記憶していない。

2007 年度後期 No.1 の裁判員制度に関して、総理大臣は裁判員になれないことに言及した記述が無かった。

- (6) 文章の前後で矛盾する記述がたまにある。
 (7) 誤字が散見される。
 (8) 語彙が貧弱である。

学生の語彙力を測定するために、2012年12月20日の基礎演習2の授業で、SPI2の言語分野問題の「同義語」「対義語」「包括関係」「2語の関係」の5択問題（柳本，2011，pp.268-283，別冊解答 pp.89-96）から各5問、計20問を抜粋しテストを行った。

その結果、正答率は平均58%、最高80%、最低45%であった。また、項目別の平均正答率は、「同義語」55%、「対義語」65%、「包括関係」88%、「2語の関係」25%であった。「2語の関係」の正答率が低かった理由は、解答する際にどのような関係であるかを判別する必要があるためであると考えられる。このように、少々複雑な問題になると急に正答率が下がる傾向が見られる。

3.3 200字論述の効果

2007年度後期の「卒業研究1」の履修学生は、後に「就職活動時に役に立った」と述べている。この時は3年次後期に実施したため、就職活動と時期的に近かったことによって、効果が発現したと考えられる。

しかしながら、基礎演習の学生に対する効果は、現在のところ明確ではない。強いていえば、回数を重ねると少し上達することである。今後、金子（2009，pp.17-19）や毛利（2010，p.41）のようなアンケート調査を実施し、効果を測定する必要がある。

3.4 200字論述の問題点

この試行事例における第一の問題点は、テーマの選定である。一部のテーマはその後で行う授業につながるものであるが、授業内容と関係がない内容のテーマのほうが多い。前者の例として、2012年度前期において、No.5で外国への関心を高めた後で、3つのグループに分かれて外国紹介のプレゼンテーションを行う授業を実施し、No.9で最貧国の実情について考えたことが挙げられる。このようなテーマを増やしていき、授業に統一感をもたせるべきである。

また、就職を意識してテーマを設定したため、初年次の学生にとって興味がわく内容であったか否かは疑問である。これに関して、橋本（2012，p.76）が「対象への愛着があるかどうか、文章の勢いや内容の充実度に大きな差を生むことがわかった」と指摘していることから、学生の興味があるテーマを指定するか、授業内容と関連づけることによって指定したテーマに学生の興味を向けさせる必要がある。あるいは、毛利（2010）の事例のように、初年次教育とキャリア教育を連動される方法もある。

第二の問題点は、答案の評価方法である。担当教員である筆者の知識の範囲内で添削及び講評を行っているため、一般的な就職試験の作文の評価方法との整合性がとれていない。したがって、学内の就職担当部門（本学ではキャリア支援課）と連携を行うことが必要である。

また、この評価方法では担当教員の主観が入り込む余地が多いため、複数のクラスで同一のテーマを扱った場合に、教員によって評価にばらつきが出る虞がある。このような場合、テーマ毎に評価基準を設定する必要がある。

さらに、棚橋（2010）や金子（2009，p.14）のように、学生が相互に評価し合う方法もあるが、学生に「読んで考えたことを表現する」という能力が要求される。

4. おわりに

「基礎演習1」及び「基礎演習2」の講義概要には、「自ら考え、自ら行動すること」を重視す

ることが目的として明記されている。当該授業科目の筆者担当クラスでは、その目的の達成の一助を担うべく、「200字論述」を独自に試行した。その結果、上述の解答傾向や問題点から窺えるように、明確な教育効果を得るに至っていない。ゆえに、初年次教育としてより効果がある文書作成教育の検討が必要である。

また、当初から予期していたことであるが、文書作成以前の、知識や語彙の貧弱さが露呈される結果となった。大学生として知識を取り扱うためには、豊富な知識の量が必要である。また、能動的かつ自律的な学習を行うためにも、知識の習得は欠かせない。本来、大学で行う教育としてふさわしいか否かの議論があるものの、知識の欠落を補う教育を行うことを検討すべきである。

最後に、このようなFD活動を通して、教員間での実践の共有化や、学内の他部門との連携が促進されることを期待している。

付記

本稿は、2012年11月28日に開催された新潟国際情報大学FD研修会において『200字論述のすすめ』と題して行った報告内容に加筆・修正をしたものである。当研究会で貴重な質問及び意見を頂いたことに、改めて感謝する次第である。

参考文献

1. 金子泰子 (2009) 「大学初年次生のための文書表現指導プログラム 評価作文をもとにメタ認知活性化方略の有効性を検証する」『長野大学紀要』第30巻第4号, pp.9-20.
2. 棚橋尚子 (2010) 「大学初年次教育における作文支援システムの導入と効果」『全国大学国語教育学会 国語科教育研究 第118回東京大会研究発表要旨集』, pp.257-260.
3. 橋本信子 (2012) 「大阪商業大学初年次教育科目におけるライティング指導の実践」『大阪商業大学論集』第8巻第2号 (通巻166号), pp.71-80.
4. 毛利美穂 (2010) 「キャリア教育における日本語表現科目の役割」『大手前大学 CELL 教育論集』第2号, pp.35-42.
5. 柳本新二 (2011) 『大学生の就職 SPI2 の解法 スピード & シェアー 2013 年度版』一橋書店.
6. 和田秀樹 (2000) 『大人のための勉強法』PHP 研究所.
7. 『岩手・ボランティア「復興食堂」広がる触れ合いの輪』新潟日報, 2011-09-13, p.11.
8. 『【金曜討論】血液型性格判断 室井佑月さん、池内了氏』産経新聞 Web 版, 2009-07-31, <<http://sankei.jp.msn.com/life/trend/090731/trd0907310748003-n1.htm>>, リンク切れ.
9. 『世界が日本人と同じ食生活すれば…地球 1.6 個分の資源必要 WWF ジャパン』産経新聞 Web 版, 2012-12-10, <<http://sankei.jp.msn.com/science/news/121210/scn12121020440002-n1.htm>>, 2012-01-09 閲覧.
10. 『NHK スペシャル 沸騰都市 第3回 ダッカ』日本放送協会, 2008-06-22 放送.
11. 『NHK スペシャル 若き技能エリートたちの戦い 巧みを競うオリンピック』日本放送協会, 2007-12-03 放送.

